

教師が「話す」授業から 教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

「学びの変革」通信

福島県教育庁
いわき教育事務所
学校教育課

No. 12 R 8. 1. 15

学力の伸びを引き出した学校の取組事例集 第5号

令和7年12月22日にお知らせしましたように「ふくしま学力調査『学力の伸びを引き出した学校の取組事例集第5号』」が、義務教育課ホームページに掲載されました。

この取組事例集の趣旨は、

ふくしま学力調査において、児童生徒の学力の伸びを引き出した学校の効果的な取組事例をまとめ、県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校と実践事例を共有することにより、どの学校においても児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。（取組事例集3ページ「1 趣旨」より）

となっており、取組の視点を「自己効力感」「規範意識」「学級風土」「主体的・対話的で深い学び」の4つとして、各校の取組を紹介しています。

いわきからは、

視点「学級風土」

将来の夢や目標に向かって自ら課題を見出し、自ら考え行動する児童の育成（湯本第一小学校）

視点「学級風土」

「自分にはこれがある、自分ならこれができる」自己肯定感・自己有用感を育む学校づくり（植田中学校）

ふくしま学力調査
学力の伸びを引き出した学校の
取組事例集
第5号

子どもたちが
どれだけ自分が伸びたかを実感し、
自信を深め、意欲を高め、
さらに学力を伸ばすことを目指して

令和7年12月
福島県教育委員会

取組事例集
二次元コード



の2校の取組が紹介されております。どちらの学校の取組も管理職のリーダーシップのもと、児童生徒の学力向上に向けて学校が一丸となって取り組んでいる好事例です。ぜひ、ご一読ください。

学級風土

いわき市立湯本第一小学校(中規模校)
「将来の夢や目標に向かって自ら課題を見だし、自ら考え行動する児童の育成」

【前年度のふくしま学力調査結果の考察から】
○学力上位置の伸びが著しい。
▲学力中位置の伸びが著しくない。
→ 児童の学習環境「学びの土台」づくりをすることで、教職員にとっても児童にとっても学習に向かうための準備を行うようとする。
→ 探究活動や体験活動を実施することで、児童が自ら課題を見だし、自ら考え行動することができるようにする。

実践1 児童の学習環境「学びの土台」づくり
実践2 地域の「ひと・もの・こと」に積極的に関わる探究活動の充実

○重点項目の精選
重点項目を3点に絞り、「学びの土台」として見える化・高認知化した。
①学年の目標を共有・高認知化。
②休み時間中に学習用具を準備し、チャイムと同時に授業を始める。
③正しい姿勢で学習を行う。

○総合的な学習の時間の充実
地域サッカーチームと出会い、「いわきのために」「復興のために」という思いを感じた子どもたち。自分たちも地域のためにできることはないかと動き出した。例えば、地域にある温泉宿を訪れインタビュー活動を兼ねた子どもたちは「もっと温泉宿の魅力を感じたい」と考え、どのような方法があるのか、その方法を自分で考え、どのような話し合い「自分でもらうためのオリジナル作り」などの考えが出された。最後に、地域の魅力や自慢、うちわや入浴剤を作ったことなどについて家庭や温泉宿に向けた発表を行った。

「学びの土台」は、分かりやすく、言葉にしやすいワードであったため、無理なく浸透していった。また、教職員が同じ目標・指導をする姿が児童には効果的であったように、児童の行動や意識は多くの変化が見られた。
地域の「ひと・もの・こと」に多く関わる経験を通して、児童が学びを自分事として捉え、自ら課題を見だし、自ら考え行動できるようになった。

取組内容（湯本第一小学校）

- 実践1 児童の学習環境「学びの土台」づくり
実践2 地域の「ひと・もの・こと」に積極的に関わる探究活動の充実

学級風土

いわき市立植田中学校(大規模校)
「『自分にはこれがある、自分ならこれができる』自己肯定感・自己有用感を育む学校づくり」

【前年度のふくしま学力調査結果の考察から】
○学力上位置の伸びが著しい。
▲学力中位置の伸びが著しくない。
→ 様々な教育活動において活躍の場、認められる場、充実感を得る場を設定することで、生徒の非認知能力の育成を図る。
→ 校訓である「和歌」や「植中プライド」の育成を基本に、全教員の共通理解のもとで課題を共有し指導を行うことで、落ち着いた学校の雰囲気づくりに努める。

実践1 夢や希望、将来の展望をもたせるキャリア教育の充実
実践2 生徒指導の機能を生かした学習指導

①道徳の時間の充実
・希望と勇気、克己と強い意志を重点目標項目に据えて、対話と考え議論する活動を通して、道徳的価値について自分事として捉え、人間としての生き方について自覚を深める時間を確保した。
②生徒を伸ばす「ほめ方」の共有
・令和7年度「校長室だより第1号」で、「ほめ方」について教職員と共有した。
③具体的なほめ方
・ほめ方（個人が一言）や内容（授業外も積極的に）についても確認した。

生徒の非認知能力の育成を図ったことで、生徒一人一人が学びを自分事として捉えたり、自分の考えを他者に積極的に伝えようとするようになることができた。
校訓「和歌」や「植中プライド」の育成をもとにした生徒指導を実践することで、一貫した教育活動を行うことができ、生徒と保護者から信頼を得ることができた。また、落ち着いた学校生活を送ることができた。

取組内容（植田中学校）

- 実践1 夢や希望、将来の展望をもたせるキャリア教育の充実
実践2 生徒指導の機能を生かした学習指導